

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ぶるーむ美園		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24件	(回答者数) 17件
○従業者評価実施期間	令和8年3月11日		～ 令和8年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6件	(回答者数) 6件
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	未就学児に特化し、子どもの発達および保護者様のニーズに応え指導員全員でモニタリング会議をして児童発達支援計画を作成している。	・個別支援計画を立てるためのモニタリングを職員全員で行い、支援の仕方を共有している。 ・サービス等利用計画の内容をご家族の要望を聞き入れ、それに沿うように丁寧に作成している。	・引き続き、職員間での話し合いを密にし個々に応じた支援を行っていく。
2	子ども達の通園している園との連携を密にするために、通所間もない時期から半年毎に園との面談を心掛けている。	・入所間もない時期も含め半年ごとに、園に出向いたり電話で面談したりと担任と話す機会を設け対象児の園での様子を聞き取り、支援の参考にしている。	・今後も、園との連携を大事にして成長過程を共有しながら支援を行っていく。
3	理学療法士や養護教諭など専門知識を持った職員がいる。	・定期的に会議を行い、専門的な知識を指導員全員で学んでいる。	今後も様々な専門的知識を学んで療育に役立てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様の要望の多い言語聴覚士がいない。	・言語聴覚士の専門的支援が望まれるが、現段階では確保できていない。	・現存の指導員で研修するなどして、専門性に近い支援に取り組んでいく。
2	指導員の支援の関わり方の一貫性が必要。	・利用児や職員が増え、一人一人の発達程度や個性に応じた支援の仕方についての思い込みなどが生じた事例もあった。	・成長とともに変化させていかなければならない支援の方法については、利用児が増えてつつある今後は、指導員全員での確認と共有・統一が更に必要である。
3	室内での活動場所がひとつしかなく、人数増加と共に手狭になってきた。	・人数が増えてきてそれぞれの年齢に合わせた活動が行いづらい曜日もあった。	・児童会館などを利用しながら、事業所内ではできない活動も行っていく。